

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターポッポ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	71	(回答者数) 45
○従業者評価実施期間	令和8年2月12日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が安心感をもって、楽しみに通園してくれること。 お友だちや先生と遊ぶことへの期待感を高めていくこと。 (“人”が大好きになっていくこと。) 	<ul style="list-style-type: none"> (小規模のセンターということもありますが)職員全員で子ども達のことを見守り、笑顔で関わることを大切にしている。 子ども達のサインを丁寧に汲み取って、気持ちをまるごと受けとめたり、かなえたりすることを大切にしている。 職員も一緒になって遊び合い、気持ちを交わすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も研修を重ね、職員の専門性の向上を図り、子ども達の支援に活かしていく。 子どもたちがやってみたくなるような遊び(活動)の充実させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> はぐくみ室や併行通園先の保育園・幼稚園等の関係機関との連携をタイムリーにとっていること。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんの全体像を一致させるために、またはご家族の子育てと一緒に支えていくために積極的に連携をとっている。これまでの積み重ねた連携で得た信頼関係もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関連携(保育所等訪問支援を含めた)を強化する。 児童発達支援センターの中核機能を活かし、近隣の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスとの相互理解を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 家族を支援する取り組みが充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育時間内に保護者グループ(お話し合いの場)をもち、日頃の子育てについて悩みや困りを共有したり、お子さんの育ちを確認したりしている。 年に数回、「きょうだいのつどい」を実施し、きょうだい児さんの交流の場をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達を取り巻く環境や家族の暮らしを理解し、支援できるように研修を重ねる。 乳幼児期から学齢期、さらにその先へと続いていくライフステージを見通した支援について理解を深める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信やコミュニケーションツールの充実 	<ul style="list-style-type: none"> メール離れがすすんでいる。(情報を送っても確認されないことが増えている。) 活動内容に関しては、HPのブログで都度、発信しているが、そのことが周知しきれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> HPのブログで活動内容を発信(更新)していることを周知していくこと。 インスタグラム開設の検討 新たなソフト(コミュニケーションツール)の導入
2	<ul style="list-style-type: none"> 職員が気持ちに余裕をもって、支援にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> “先生が忙しそうだから”という理由で相談をためられる方がおられるなど、気持ちの余裕のなさをご家族に伝わってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> DX化を推進することで時間を生み出す。 業務全体の整理や分担の見直しを行う。
3			